

たどつのもかし

Vol.12 (H26.9.1)

「南鴨念佛踊：町内を代表する民俗文化財」



写真1

平成26年8月24日、大字南鴨の賀茂(加茂)神社において県指定無形民俗文化財の「南鴨念佛踊」が開催されました(写真1)。長く開催されていみせんでしたが、今回、正規には約21年ぶり、芸能祭で復活した別件では

約14年ぶりの再開となりました。当日は県内各地から多くの観覧者が訪れました。

この踊りの起こりは、南鴨文化財調査委員会編『南鴨念佛踊』によると、平安時代まで

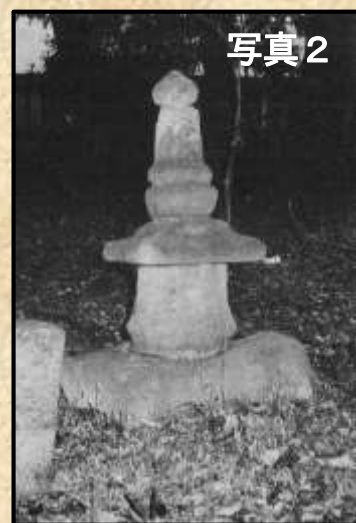


写真2

さかのほ 遡りますそれはにんな 仁和4年(888年)に起きたかんばつ 大旱魃の際に、当時、さぬきのくにこくし 讃岐国国司であった菅原道真が現在、国府の推定地であるとされている坂出市府中町のきやま 城山で自ら降雨祈願をし、さらに道隆寺のりげんだいし 理源大師に依頼して、鴨地区にあったごすてんのうしや 牛頭天皇社(写真2：現在も神社内に石塔が残っています)できとう 祈禱したところ、たちまち雨が降り、地元の農民たちが喜び、踊ったことを起源としています。

この起こりに関して綾川町の滝宮神社で行われていた^{たきのみやねんぶつおどり}滝宮念佛踊でも同様の起源が残されており、2つの踊りには共通性が多く、現在では行われてはいませんが、過去には滝宮神社まで奉納しに行っていたことも両者の踊りの関係性が強かったことが^{うかが}窺えます。

踊りの流れは、神社にすぐさま奉納するわけではなく、その前段階で、神社の御旅所まで巡行していき、そこでまず踊りが奉納されます(写真3)。

最初にナギナタの四方切り(写真4：元々は神楽で行い、^{ほこ}鉾を使う)で舞台を清めた後に、南無阿弥陀仏の声明(念佛に音節を付けて唱える)が変容した「ナッパイドーヤ」や「ナーモデ」という掛け声とともに、鉦や太鼓、横笛の音色に合わせて、^{かんじょうなり}勧請成といった先導役に率いられた稚児たちが独特の衣装をまとい、円の周りで踊ります。



写真3



写真4